

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2023/12/31	2024/1/31	2024/2/16	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	33,464.17	36,286.71	38,487.24	38,865.06	2024/2/16	24,681.74	2022/3/9
NYダウ	ドル	37,689.54	38,150.30	38,627.99	38,927.08	2024/2/12	28,660.94	2022/10/13
円/ドル	円	141.04	146.92	150.21	151.95	2022/10/21	104.92	2021/2/23

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 好調な10-12月期決算を背景に米国株市場が上昇したことや、日銀による金融緩和の長期化観測を背景に円安ドル高が進行したことなどから大幅に上昇～

先週の日本株市場は、日経平均が+1,589.82円(+4.31%)、TOPIXが+66.85ポイント(+2.61%)となり、好調な10-12月期決算を背景に米国株市場が上昇したことや、日銀による金融緩和の長期化観測を背景に円安ドル高が進行したことなどから大幅に上昇しました。業種別で見ると、保険業、石油・石炭製品、海運業などの27業種が上昇した一方、パルプ・紙、食料品、建設業などの6業種が下落しました。

連休明け13日は、AI(人工知能)関連の半導体需要への期待や好調な米10-12月期決算を受け、先々週末から週初にかけてS&P500やNYダウが過去最高値を更新するなど米国株市場の上昇が続いていたことや、日銀による金融緩和の長期化観測を背景に1ドル149円台まで円安ドル高が進んだことなどから大幅上昇し、日経平均・TOPIXともに約34年ぶりの高値を付けて始まりまし。翌14日は、1月の米CPI(消費者物価指数)の伸びが市場予想を上回ったことを受けて米利下げ時期が後ずれするとの見方が強まり、前日の米国株市場が軟調となったことから反落しましたが、その後は、米半導体企業の好決算が続いたことや1月の米小売売上高が市場予想を大きく下回ったことを受けて再び米早期利下げ期待が強まったことなどから米国株市場が上昇したことに連れて上昇し、週末16日は日経平均・TOPIXともに高値を更新して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
2月19日	Mon	日本	機械受注(船舶・電力を除く民需)(前月比)	12月	▲4.9%
2月20日	Tue	米国	景気先行指標総合指数	1月	▲0.1%
2月21日	Wed	日本	貿易収支	1月	689億円
		欧州	ユーロ圏消費者信頼感指数	2月	▲16.1
2月22日	Thu	米国	FOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨公表	1月30・31日開催分	
		欧州	ユーロ圏製造業PMI(購買担当者景気指数)	2月	46.6
		欧州	ユーロ圏サービス業PMI	2月	48.4
		米国	製造業PMI	2月	50.7
2月23日	Fri	ドイツ	サービス業PMI	2月	52.5
			中古住宅販売件数	1月	3,780千件
2月23日	Fri	ドイツ	IFO企業景況感指数	2月	85.2
決算発表予定 他	海外	決算発表 :	2/20 ウォルマート、ハーケイズ 2/21 リオ・テント、グレコア、HSBCホールディングス、アナログ・デバイス、エヌビディア 2/22 ネスレ、ロイズ・ハンキン グ・グループ、ニューモント、モデルナ、アクサ、ヴァーレ、レノボ・グループ		

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 堅調な企業業績などがプラスとなるも、高値警戒感や米早期利下げ期待の後退などが上値抑制に働き、横ばい圏で推移～

今週の日本株市場は、堅調な企業業績などがプラスとなるも、高値警戒感や米早期利下げ期待の後退などが上値抑制に働き、横ばい圏で推移するとみま。

先週までに発表を終えた国内企業の10-12月期決算について、輸送用機器や電気・ガス業などが引き続き好調さを維持したことから、業種間での差はありつつも全体では増収・増益となりました。足元の日本株市場は、これら日本企業の堅調な業績が評価され、当面堅調さを維持するとみています。ただし、日経平均株価の史上最高値の更新が視野に入る水準まで上昇してきており、高値警戒感が意識される状況となっています。21日には、1月30・31日に開催されたFOMCの議事要旨が公表されますが、米景気が底堅さを維持する中でFRB(米連邦準備理事会)が利下げを急がない姿勢が改めて示されれば、早期利下げ期待が一段と後退し株価の上値抑制材料になるとみています。また、21日に発表される米半導体大手エヌビディアの決算に注目が集まります。市場では同社の好決算は概ね織り込まれており、想定範囲内となればこれまで日米株を押し上げてきた半導体株の利益確定売りに繋がる可能性があり、注意が必要とみています。その他の注目材料として、日本では19日の機械受注、21日の貿易収支、米国では20日の景気先行指標総合指数、22日の製造業/サービス業PMI、欧州では21日のユーロ圏消費者信頼感指数、22日の製造業/サービス業PMI、ドイツでは23日のIFO企業景況感指数などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <https://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会